学校番号	T0203

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	改訂版　新数学Ⅰ（東京書籍）						
副教材等	教科書の内容に関連した別教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学までに学習した内容を確認し，それを基に数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深めます。第１回授業時にファイルを配布します。授業プリントや問題プリントを整理し，各自復習等に用います。授業プリントで学習した内容を問題プリントで確認し，知識の定着を図ります。問題プリントは実施ごとに回収し，評価の対象とします。毎回，しっかりと取り組みましょう。授業への取り組み状況も評価の対象となります。遅刻や欠課をせずにしっかりと出席しましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
数と式，集合と命題，２次関数について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。

【思考力、判断力、表現力等】
事象を数学的に考察・表現する能力を培う。

【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを主体的に活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式，集合と命題，２次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察，判断する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第1章　数と式	第1節 数と式 1. 計算の基本	a:正の数，負の数の加法，減法，乗法の計算ができる。 b:四則が混じった計算の優先順位を正確に判断できる c:これからの学習の基礎となる数の計算方法に関心をもち，積極的に習得しようとする。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・提出ノートの内容	・学習活動への取り組み ・課題 ・提出物の状況、ノート、プリント等
		2. 単項式と多項式	a:多項式の同類項をまとめ，次数の大きい順に整理することができる。 b:ある数量について，文字を使った式で表現することができる。 c:単項式，多項式とその整理の仕方に関心をもち，考察しようとする。			
		3. 多項式の加法と減法	a:多項式の加法，減法の計算ができる。			
		4. 多項式の乗法	a:指数法則を理解し，単項式の乗法の計算ができる。 b:式の展開と分配法則の関係を考察することができる。 c:多項式の乗法には，数の場合と同様に分配法則が使えることに関心をもち，考察しようとする。			
		5. 展開の公式	a:展開の公式を利用できる。 b:展開の公式の導き方を，面積図を使って考察することができる。			
		6. 因数分解	a:因数分解の公式を利用できる。 b:たすき掛けの仕組みを理解している。 c:展開と因数分解の関係に着目し，因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。			

		7. 展開, 因数分解の工夫	a:文字のおきかえを利用して，展開や因数分解を行うことができる。 b:文字をおきかえることで，展開や因数分解の公式を適用できるようになることを見通せる。 c:おきかえなどの工夫によって，よりよい方法を考察しようとする。			
		8. 根号を含む式の計算	a:根号を含む式の加法，減法，乗法の計算ができる。 b:根号を含む式の乗法の計算に，展開の公式を適用することができる。			
		9. 実数	a:有理数と無理数の違い，および実数について理解している。 b:実数を数直線上の点の座標として考察することができる。 c:今まで学習してきた数の体系について整理し，考察しようとする。			
		第2節　1次不等式 1. 1次方程式	a:方程式における解の意味を理解し，1次方程式を解くことができる。 b:日常の問題を解決するのに，1次方程式を活用することができる。			
		2. 不等式	a:不等式が値の範囲を表すことを理解し，その範囲を数直線上に表すことができる。 b:数量の大小関係を式で表現することができる。 c:不等式の性質について，等式の性質と比較して，考察しようとする。			
		3. 不等式の解	a:不等式における解の意味を理解し，1次不等式を解くことができる。 b:不等式の性質を基に，1次不等式を解く方法を考察することができる。 c:　1次不等式の解き方について，1次方程式の解き方と比較して，考察しようとする。			

後 期	第 2 章 2 次 関 数	第1節　2次関数のグラフ 1. 関数	a: 関数の値を求めることができる。 b: 2 つの数量の関係を関数の式で表現することができる。 c: 日常の事象の中に関数を見つけようとする。	・定期考査 ・小 テスト	・定期考査 ・提出ノートの内容	・学習活動への取り組み ・課題 ・提出物の状況、ノート、プリント等
		2. 1 次関数のグラフ	a: 傾きと切片に着目して，1 次関数のグラフをかくことができる。 b: y＝ax＋b のグラフを y＝ax のグラフを y 軸方向に平行移動したものとみて考察することができる。			
		3. 2 次関数のグラフ	a: y＝a(x－p)2＋q のグラフをかくことができる。 b: y＝ax＋b のグラフを y＝ax のグラフを y 軸方向に平行移動したものとみて考察することができる。 c: 放物線のもつ性質に興味・関心をもち，自ら調べようとする。			
		4. 2 次関数のグラフ	a: ax2＋bx＋c を a(x－p)2＋q の形に変形できる。平方完成を利用して y＝ax2＋bx＋c のグラフをかくことができる。			
		第2節　2次関数の値の変化 1. 2次関数の最大値, 最小値	a: 平方完成を利用して，2 次関数の最大値，最小値を求めることができる。 b: 2 次関数の値の変化をグラフから考察することができる。 c: 2 次関数の最大・最小の問題を，図をかいて視覚的に考察しようとする。			

		2. グラフと2次方程式	a: 因数分解を利用して 2 次方程式を解くことができる。解の公式を利用して 2 次方程式を解くことができる。 b: 2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を，2 次方程式と関連させて考察することができる。 c: 2 次方程式がどんな場合でも解けるように，解の公式を得て，それを積極的に利用しようとする。			
		3. グラフと2次不等式	a: 2 次関数のグラフを利用して,2 次不等式を解くことができる。 b: 2 次不等式の解と 2 次関数の値の符号を相互に関連させて考察することができる。 c: 2 次不等式を解くときに，図を積極的に活用しようとする。			
	第4章 集合と命題	1. 集合	a: 共通部分，和集合，空集合について理解している。 b: 集合に関する記号を,適切に用いることができる。 c: 集合について,それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとする。			
		2. 命題と集合	a:集合の包含関係や反例を調べるなすることができる。 b:命題の真偽を，集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。 c:条件を満たすものの集合の包含関係が，命題の真偽に関連していることに着目し，命題について調べようとする態度がある。			

		3. 必要条件と十分条件	a:十分条件，必要条件及び必要十分条件の意味を理解している。 b:対偶の利用や背理法の利用を適切に判断して，命題を証明することができる。 c:直接証明法では難しい命題も，対偶や背理法を利用すれば証明できることに関心をもち，証明法を習得しようとする			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度